

民家園だより

民家園設立の発端となった旧伊藤家住宅

重要文化財

旧伊藤家住宅

四方下屋造入半屋茅葺

平面積 143.5㎡(43.4坪)

旧所在地 川崎市金沢213

昭和39年5月29日

重要文化財指定

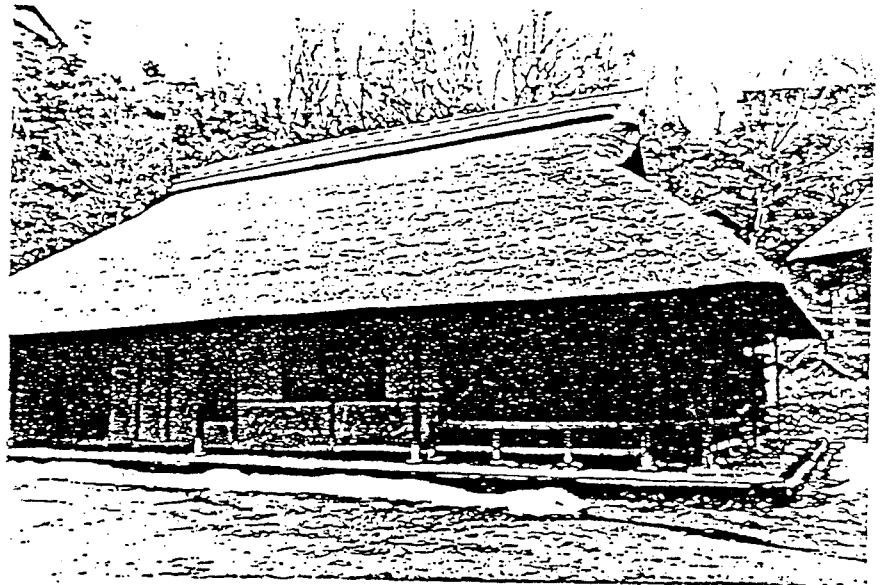
昭和39年6月9日

伊藤西造氏より川
崎市に寄贈になる

昭和40年1月1日

国及び県の助成を
得て解体移築着手

昭和40年11月15日 移築完成



旧伊藤家住宅正面

約300年前の民家

この家はもともとここから約6km西北方に当る麻生区金程にあつたもので、伊藤西造氏の住宅でした。江戸時代には今の村長に相当する名主をつとめたことがあるそうです。

この伊藤家住宅を移築した時に、今まで建つていた敷地を発掘したところ、地面の下から掘立柱の跡が発見されました。掘立柱の家は寿命が短くまた豊かになれば建て替へられてしまうので、300年も前の建物となるとこうした上層農民の家しか残りません。そうした意味で国の重要文化財になりました。

伊藤家の特色 外観でまず気がつくのは軒が低いことでしょう。また「ひろま」の前面

は格子のつた窓となり、しかも半間ずつしか開きません。

格子窓は「さま」とか「しよけまど」と呼ばれ、狼や猪などを防ぐためのものと伝えられています。土間と「ひろま」の境は建具の間仕切はなく、中央2間分だけ低いたながあります。「ひろま」の床が「竹すのこ」張りであることも珍しい一例です。そのほか座敷に床の間や障子のないこと、物入れがごく少なく「いろり」の後方の食器棚だけであることなども後世の農家と変わっています。

見所 ◎ひろまの腰板壁 ◎すわり流し ◎大戸口のマゲコの尾◎竹葉の子の床

((((園の動き))))

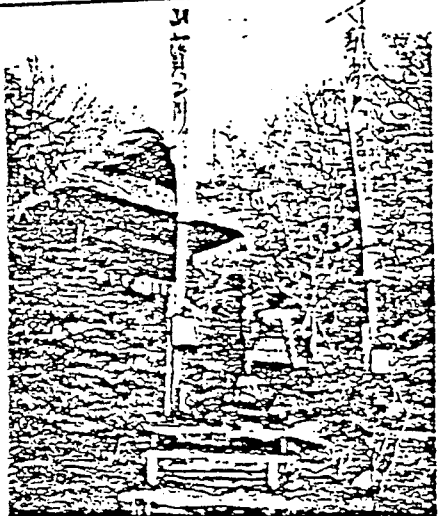
- 民家に学ぼう会(第19回)・・・昨年11月17,24日合掌造りの古民家について詳しく学ぶ 民技会の催し
- 民家園遊覧会(第3・4回)・・・2回に亘つて、①施設の整備 2月2日(日) オヒツイレ作り
②民家園の事業、③当面の懸案事項等がいろいろな角度から討議されました。 9日(日) オヒツイレ作り
「メカイ」
- 親と子の手づくり教室・・・去る1月19,26日の両日、和麻の作り方 揚げ方等を学ぶ 16日(日) サキ織り
親子協力して、変化に富んだ作絵の六角麻 ができあがりました。 自主製作
- 旧山田家住宅復原工事中
- 旧北村家量根臺葺え中
- ひな祭り展示は、旧北村家工事中のため中止

雲影山祭り

3月21日～23日

川崎市内岡上にあつたお雲の神様のお祭りです。

作品展示会
4月8日(日) 作品展示会



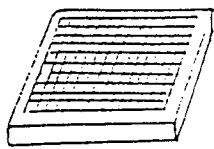
＝ 作品展示会 ＝

民具製作技術保存会では、平常の製作活動を旧作田家を中心に行つていますが、その一年間の作品展示会を毎年年末に作田家の土間で行つております。ワラ細工製品としては、かつて日本のどこでも使われていたワラジやソオリ、雪沓などの履物類やミノ、合所で使われるカマシキ、円座など種類も多い。竹細工製品としては、シノ竹のメカイカゴ、ザル類、それに昔ながらの方法で染める藍染や草木染と、それを布に織り、和服や小物に仕立てた衣生活用品。それらは現在でも一部では使われていますが、ひと昔前にはごく当然の事として生活の中に使われていたものばかりです。

これらの手作りの生活用具は、新素材の発達と工場生産の拡大にともない、比較的安価に販売、流通するようになり古来からの伝統的な手造り生活用具は急速に消え去ろうとしているのが現状です。

この会では、これらの手作り生活用具の製作技術を継承し、将来に伝えるという目的で十二年前に発足しました。会員には老若男女、会社員、公務員、商店主、工業技術者、主婦・学生と実にいろいろな人達がおられます。ご自身の生業とは関りなく、只ひたすら昔に返り、その技術をマスターし、そして後輩へ正しく伝えるという事が茅葺の古民家の軒下で行われています。そこには手から手へ、雑談を交えながら教え教えられるという情景があります。

(1) 掃き立て用具



タネ箱



ハネバケ

蚕のタネ紙は厚紙に丸型に種をつけたもので、大正の始めからは木枠をつけたタネ箱に変わり、紙一面に種をつけたものになりました。種箱1枚で約3万粒あります。ハネタテ(孵化)したケゴは、ハネバケでミタテバコへ移します。ケゴは保温が

必要なので、箱の中にサンザシ(蚕座紙)を敷いてケゴを移し、その上にポー

カンシ

(防寒紙)

をかけ

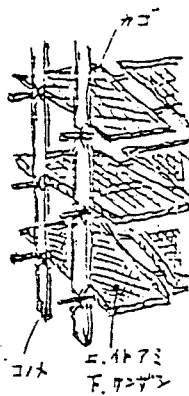
て保護

します。

昔は竹

の方ゴを使っていたましたが、昭和10年頃からミタテバコに変わりました。

(2) 育成用具



ケゴから2令になるまでは、保温が必要なのでミタテアンドンを使い、周囲を紙で作り、中に火鉢を入れて保温する方法がとられています。その後はコノメという棚にカゴをのせ、サンザシとイトアミを敷き、蚕を移します。蚕が大きくなると

カゴの上に敷くものをイトダテとイトアミに変え、上装(マユをつくる)の頃になるとエガと呼ぶ丈夫な時に、イトダテとナワアミを敷いて飼います。そして時々アミを上げて、下のイトダテ

とエガと呼ぶ丈夫な時に、イトダテとナワアミを敷いて飼います。そして時々アミを上げて、下のイトダテ

民具

シリーズ

(1) 養蚕用具

雲影山まつりにちなみ、養蚕用具のいくつかをご紹介します。今、津久井郡でも盛んですが、ここ川崎の北部でも大正ころまでは盛んに蚕を飼っていました。(三. 神奈川県津久井郡神代町の一列)

(3) 桑摘み用具・桑刈み用具

蚕に桑をあたえることを給桑といい畑からクワキリ鎌で切つて来た桑は、種蚕の頃はクワコキやクワツミで葉をとり、クワキリ包丁で細かく切つてあたえますが、蚕が大きくなるに従つて切り方も大きくし、4令になると葉をそのまま与える。5令になると桑の枝ごとしかも充分手えないといひマユができないといわれている。

蚕は四回休憩し、脱皮します。(1~5令)



クワツミ



クワキリ鎌



クワキリ包丁

(4) 上装用具

蚕がマユを作ることを上装といい、マユを作る葉のマブシには、古い頃には木の小枝を使ったハギマブシを使いましたが、その後ワラを折り曲げただけのシマダマブシに変わり、更に改良されてワラマブシやナワマブシが使用されまた回転マブシが使われるようになって便利になりました。マブシからマユを採り、ケバトリキで表面を整え、乾燥させマユカゴに入れて出荷します。



ワラマブシ

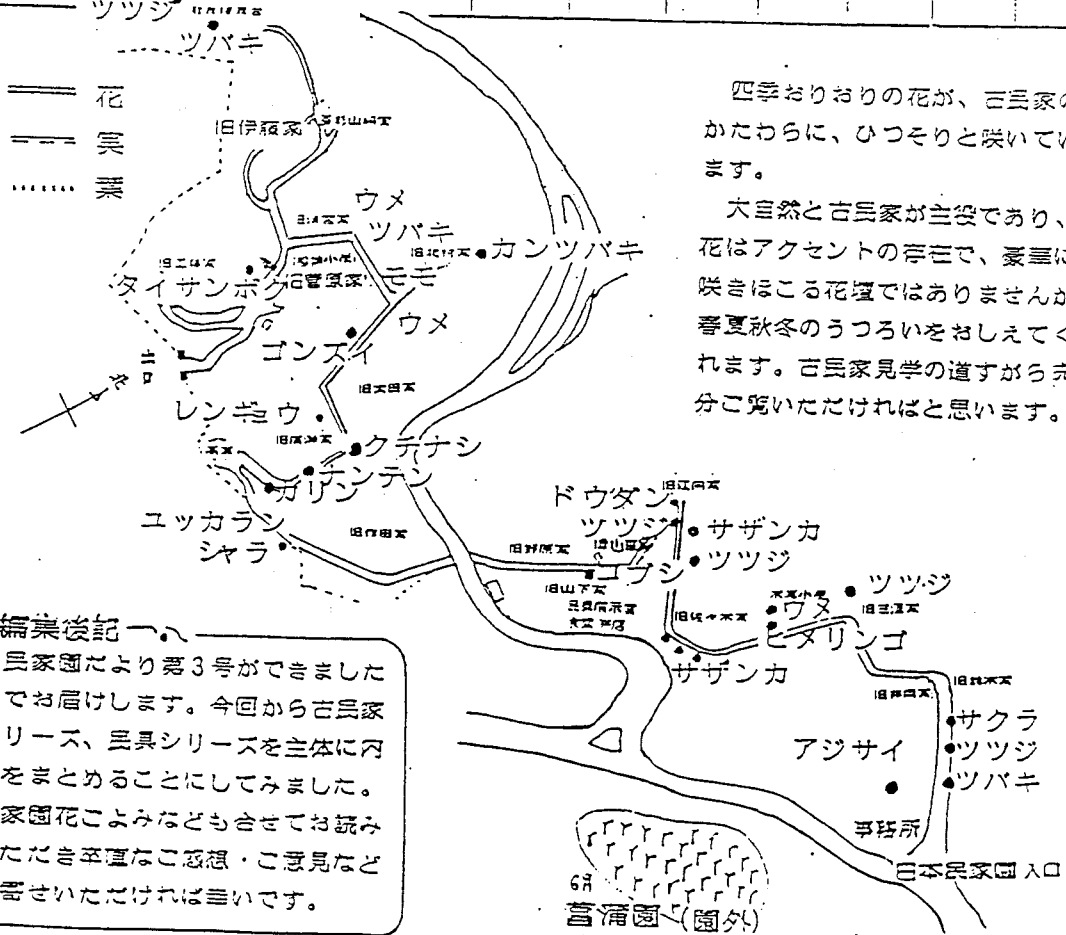


ケバトリキ



民家園の花ごよみ

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ウメ(紅)	ハナミモ	ニゴノキ									ナンテン
	ウメ(白)	ヤマザクラ	ニッカラン								
カンツバネ		ナシ	サツニ							カンツバネ	
クテナシ(実)	アンス	ヒメリンゴ		クテナシ						クテナシ(実)	
ヤツデ	ヤマツバネ			アジサイ						ヤツデ	
	オトメツバネ			シヤラ						サザンカ	
	テンテウゲ									ミカン(実)	
	ネブシ	ヤマツツジ		クテナシ							
	コブシ	ツツジ									
		ガマスミ		ネムノキ					ガマスミ(実)		
アオニ(実)		ヤニザクラ								アオニ(実)	
	レンギョウ	タイサンボク			ゴンスイ(実)						
	ヤマグミ				ヒヤクジツコウ						
		カリン								カリン(実)	
		ミクレン									
タイサンボク		ドウダンツツジ								ドウダンツツジ	
ツツジ											



四季おりおりの花が、古民家のかたわらに、ひっそりと咲いています。

大自然と古民家が主役であり、花はアクセントの存在で、豪華に咲きほこる花壇ではありませんが春夏秋冬のうつろいをおしえてくれます。古民家見学の道すがら充分ご覧いただければと思います。

編集後記

民家園だより第3号ができましたのでお届けします。今回から古民家シリーズ、民具シリーズを主体に内容をまとめることにしてみました。民家園花ごよみなども含めてお読みいただき幸運なご感想・ご意見などお寄せいただければ幸いです。